

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500856		
法人名	有限会社 富士松		
事業所名	グループホーム 輪楽笑		
所在地	春日井市白山町5丁目5番地の2		
自己評価作成日	平成27年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2372500856-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念であります。「ゆっくり、楽しく、みんなで」を基本としています。広い敷地を利用して利用者様と共に四季の草花を育て楽しみ、自家農園で野菜を収穫しスタッフと共に調理をして”季節”の変化を食事を通して感じ楽しんでます。夏の恒例行事としてバーベキュー大会やそうめん流しみかん狩りを開き近隣の子供たちを交え「わっはっは、わっはっは」と楽しいひと時を過ごすなど笑いの絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『自分らしく、笑顔と共に わっはっは』を基本として、職員は利用者各々の思いに寄り添い、一緒に『泣いたり、笑ったり、怒ったり』の毎日を過ごし、利用者との信頼関係を構築するように努めている。広い敷地を利用し、庭で四季折々の野菜を栽培し、庭でのミカン狩り等四季の移り変わりを肌で感じている。又、利用者は全て女性で、身だしなみを正して髪をセットし、着ている衣服も何時外出しても良い感じであり、利用者全員が生き生きとした表情をしている。ホームの名の通り『わっはっは』と笑いの絶えない明るいホームである。職員ヒアリングで、笑いの絶えないホームなので『楽しく来て、楽しく帰れる』との前向きな声を聞く事が出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何時の時も地域に根差した笑顔が絶えないホームであることを理念に、毎日をご近所さんからも気楽に声を掛けられるような、明るいホームとする。	『自分らしく笑顔と共にわっはっは』を理念としてホーム内に掲示している。理念を展開し、年度目標を立てて日々のケアに活かしている。職員は常に明るく笑顔の絶えないホーム作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と一緒に暮らしていけるよう月1回行われる老人会への積極的な参加や清掃活動の実施。ホームでの行事にはご近所さんに少しでも参加して頂けるよう声掛けを実施している。	町内会の一員として、盆踊り・お祭り・クリーン大作戦等に利用者や職員が参加している。ホームでの流し素麺・バーベキュー大会等に、地域の小さい子どもたちが喜んで参加し、双方向の交流が成されている。	認知症ケアや関わり等について、地域に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1つの実践は地域を巡る散歩で職員はもとより、利用者様からの挨拶を積極的に交わす事で密着度を大切に殖やしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での貴重な意見等をホーム会議に於いて、討論し出された多くの意見を参考に指示して改善に努めている。	市役所・包括・町内会・地区社協・民生委員・ホーム関係者をメンバーとして年6回開いている。ホームからの報告に留まらず、地区社協より『色々学べるので地域の防災訓練に参加しては』等の前向きな意見も出る。	会議のメンバーも充実しているので、ホームの課題を議題として取り上げ、継続審議を行い、より成果の挙がる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会が有る毎に我々のケアサービス等の取り組みを伝え改善に努める。2ヶ月に1度の運営推進会議に参加されている市担当者から意見などを聞き協力関係を深めている。	運営推進会議に市役所・包括支援センターの職員が必ず出席し、ホームの状況は市役所窓口で理解されている。日常的に解らない事や問題点は地域包括支援センターに相談し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で「身体拘束とは・・・」を理解しどう取り組むかを共通認識とする。声掛け、見守りで支援にあたり事務所に目に付く場所に掲示してあり意識向上に努めている。	身体拘束排除の宣言書を掲示し、職員は言葉の拘束を含め身体拘束の内容を熟知している。防犯上、夜間のみ施錠しているが、寄り添いながら見守りを行い、安全と自由を両立させている。玄関のドアは『涼しい風が入るから』と訪問当日も開いていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何人も虐待が見過ごされることの無い様日頃から啓もうに努め、利用者様には如何なる状況にあっても優しい言葉等で接する。「身体拘束をしないケア」を小冊子にして事務所に掲示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会議等で学習の機会を持ち、必要に応じて支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者、家族と面談を行い契約内容を説明しその後、質問等を受け理解納得を図っている。入居時に於いても契約書、重要事項説明書に基づき説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃のケアの中から改善点が見つければ職制を通して職員全体に統一させる。強いてはホームの運営や勤務意欲へとつながる。	家族は全員市内在住で、料金は現金払いのため来訪頻度も多い。職員は面会時に日々の状況を説明し、意見・要望を聴き対応している。利用者の要望は日常生活の言葉・仕種から把握している。	家族アンケートはここ2年、全家族が満足と応えていたが、本年は不満の回答が少々見られた。当初満足していたサービスも当たり前になり、より高いサービスを期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者並びに管理者は日常におけるホーム内の状況を把握して、職員の意見等を聞き意思疎通を図っている。	管理者は日頃から職員に声かけし、コミュニケーションを大切に話し易い雰囲気を作っている。職員ヒアリングで『やりたい事を提案すると、やって見る様に後押ししてくれる』との声を聞く事が出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人の就労状態の把握に努め、1日に1度ホームを訪れ職員がやりがいをもって働ける職場であるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた外部研修に参加させスキルアップを図っている。会議内で研修報告を開催して共有化している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修等を利用して情報収集に努めて必要事項はホーム内に広めサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居及び入居初期段階に於いて本人の状況を見守り声掛け等で得た情報を分析して本人に合ったケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報を聞き取り等で収集し、叶えられる事項に於いては詳細を報告し不安困惑を取り除く、特に初期段階に於いてはこまめに電話連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が”今”何を求めているのかを見極め他の施設利用を含め充分なる情報を提供する事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まずはホームでは家族である事を念頭に於いて誰彼なく日常生活を進めていく、そこには笑い有り 悲しみ有り 怒り有り 褒め有りの中から信頼を得ていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の橋渡し役に徹して、家族が知り得たい利用者の情報を機会有る毎に提供している。通信を月1回各家族あてに発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の幼馴染の関係出来るだけ継続出来るよう支援する事に心掛ける。その方法として来訪されれば外出の声掛けをし年賀状や暑中見舞いのはがきを書くなど支援している。	幼馴染の来訪に、誰か分らず話している内に思い出す利用者、習い事の仲間の来訪に「あんな誰？」と言う利用者、ドライブの途中で以前住んでいた所に立ち寄って感激する利用者等、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲーム等を通じて利用者同士の交流を支援し対人感情を排除して良好な対人関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の環境に早く馴染むよう家族からの問い合わせ等に速やかに対応を進める。必要があれば訪問電話等をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアする中で利用者の変化を見極めて話を聞く行動を知る感情を読み取ることに努力する。その結果、どのようなケアが今必要かを知る。	職員は日頃から1対1(散歩時・夜勤時・食介時・入浴時等)で寄り添って話を聴き、思いを聞き出している。寄り添って話す『食べたい』『行きたい』等の会話が進む。『墓参りに…』との思いは家族の協力で実現した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居開始から本人だけでなく、家族からも今までの環境がどうであったか出来るだけ多く収集する。その結果をより良いサービスへとつなげる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のどんな些細な事でも取りこぼさないよう”今”何を求めているかを見極めケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が利用者の現状を正しく理解する為、必要な協力(代表者、職員、家族)を得て介護計画を作成している。	家族から提出された『意向書』をベースに、家族・利用者の意向を介護計画に反映させている。介護日誌やミーティング時のカンファレンスで実施状況や現状を把握し、3ヶ月毎にモニタリング・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子等個人的な考えで決めるのではなく、どんなことでも些細な事でも申し送りに記載し職員全体で共有している。利用者用職員用の各ノートを作り記入し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、送迎付き美容院。買い物ツアーなど形にとらわれないケアサービスを、特に一人一人に合った外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループによる定期訪問。自宅に居た時のように喫茶店へ行く。美容院へ行く。時折楽しみが持てる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活の中で訪問診療の定期化、特に体調の変化に於いて即指示と対応をして頂ける病院の確保。それにより職員の心の余裕が生まれ他のケアが出来ている。	かかりつけ医(内科・神経科・皮膚科・歯科)は利用者全員が提携医(定期検診・随時往診)で受診し、職員が付き添っている。総合病院等の専門医の受診は家族が通院付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師による健康管理。医療面では職員のその時その場面での相談と助言で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指して医療相談員と打ち合わせをしている。機会が有る毎にアドバイスを受け対応をしている。訪問医療は内科、皮膚科、歯科の3科あり各病院との関係は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医との慎重なる話し合いとホームのできる事の説明を交え、今後どうあるべきかを共有化する。	管理者は医療行為がなく、食事が経口摂取出来る限りホームで対応する考えである。必要に応じて家族や協力医と、ホームで出来る事・出来ない事を話し合い、対応を決めて行く方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法を受講している。突発的な事故などに備えて定期会議の場に於いて対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。実施項目は家事、地震、そして夜間で想定訓練を実施している。市の消防課主催の訓練講習に参加している。	『避難誘導の習慣付け』から、音が鳴ったら避難の習慣付けを毎週金曜日に行っている。早い利用者で2～3分、遅くても5～6分で避難している。訓練としては夜間想定も含めて年2回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であり親に等しいことを念頭に置き、個々に合った声掛け等を実施している。	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事を周知しながら、言葉遣いに気を付け、意見を押し付けないように心掛けている。個人的な会話は居室で行い、入浴・排せつ時の羞恥心にも気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者各自の思いや要望がどこにあるのか、日頃の会話 行動で読み取り予測し自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせて個性を尊重して穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と話し合いを重ね納得のいくその季節に合った身だしなみやおしゃれを職員と話し合いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で収穫された四季折々の野菜を利用者を交え献立から始め食の楽しみを満喫する。時折外食も取り入れている。	職員が自家農園から利用者と一緒に野菜を収穫してきて、それが調理されて昼食の食卓に並んでいた。『力量と要望』に合わせ、調理準備(ひげ取り・刻み・ころも付け等)、配前・下膳まで多くの場面で活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表を基に毎日チェックをしている。常に水分補給の1つとして居間にお茶を用意してある。声掛けにて半強制的に水分補給を促している。朝及び就寝前にスポーツドリンクを飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。特に見守りの必要な利用者に於いては終了まで付き添う。また定期的に歯科訪問診療に於いてアドバイスを受けた場合、即対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者各自の体調を考慮して排せつ等に注意して自立排せつが続けられるよう支援する。自律排せつが困難な利用者については記録して他の職員との共通化を図って医師の指示をもらう。	介助の必要な利用者は表情や仕種から、自立している利用者は本人からの申し出で、排泄パターンを把握している。自立した排泄が出来る様に、利用者個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防体操を取り入れたり個々に応じた水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本としている。常に清潔が保てるよう利用者に合った保湿剤や入浴剤で支援をしている。	2日に1回の入浴を基本とし、1対1での会話を楽しみながら洗える所は自分で洗うように、なるべく手出しをせずに見守っている。季節により入浴剤・ゆず湯・菖蒲湯等、入浴を楽しむ配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休息や安眠を支援している。決して無理時にしない。夜間に於いては巡回時に室温、寝具の状態を確認と調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の利用者の薬の内容の把握をしている。服薬時、誤服薬防止の為、手渡しと服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割や楽しみを出来るだけ実現出来るよう話し合いを重ね取り組んでいる。(編み物、塗り絵、生花アレンジフラワー、観劇など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で定期的に外出を支援している。又少人数でもお馴染みの店などに出向いている。時として家族との外出を促している。	日常的にベンチでの外気浴や近くの喫茶店に出掛け、天気が良ければ季節を求めて遠出する。利用者が集団で活動する事が多く、自力で歩けない人や出不精の人たちも、皆に引っ張られて行動している。訪問当日も昼から喫茶店へ全員で出かけて行った。	家族アンケートで23年以降全回答者が満足(ややも含む)と答えていたが、今回初めて『解らない』の回答が1名あった。職員が一生懸命『力』を入れている外出支援の内容を家族に伝える工夫を期待したい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物計画し支援している。お金をもって品物選びから支払いまで自分で行う。満足感の充実。それらを職員が見守る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会が有る毎に本人による電話を掛け手紙を書く。特に手紙に書いては年賀状、暑中見舞いなど大切な人へ出すよう促し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者の作品や写真を掲示して話題作りの役割をしている。出来るだけ心落ち着き過ごせるようしている。	庭側は全面ガラスで、リビングは広くて日当たりが良い。利用者の作品・外出時の写真が飾られ、利用者の笑い声溢れた和やかさと相まって、活気ある空間が作られている。テレビ前のソファには利用者個々の名前が貼られ、映画館のVIP席の雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは利用者が過ごしやすい空間に心掛けている。時々椅子の配置を換え気分転換を図っている。また屋外では自由に外の空気を体験出来るようにベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人と家族と相談し何を持ち込むかを決め本人が安心して過ごせるよう配慮と工夫をしている。四季折々に於いても持ち込んだ品々の入れ替えも実施している。	夫の写真と位牌の前に、自分で写経したお経を置いて日々拝んでいる利用者や、居室で趣味の編み物を楽しんでいる利用者等、それぞれの習慣や好みに沿ったその人らしさが居室に表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーである。歩行器がゆったりと動けるよう共用スペースは広くとってある。自律した生活が送れるよう、安心安全に出来るよう各所に手摺りが設置されている。		